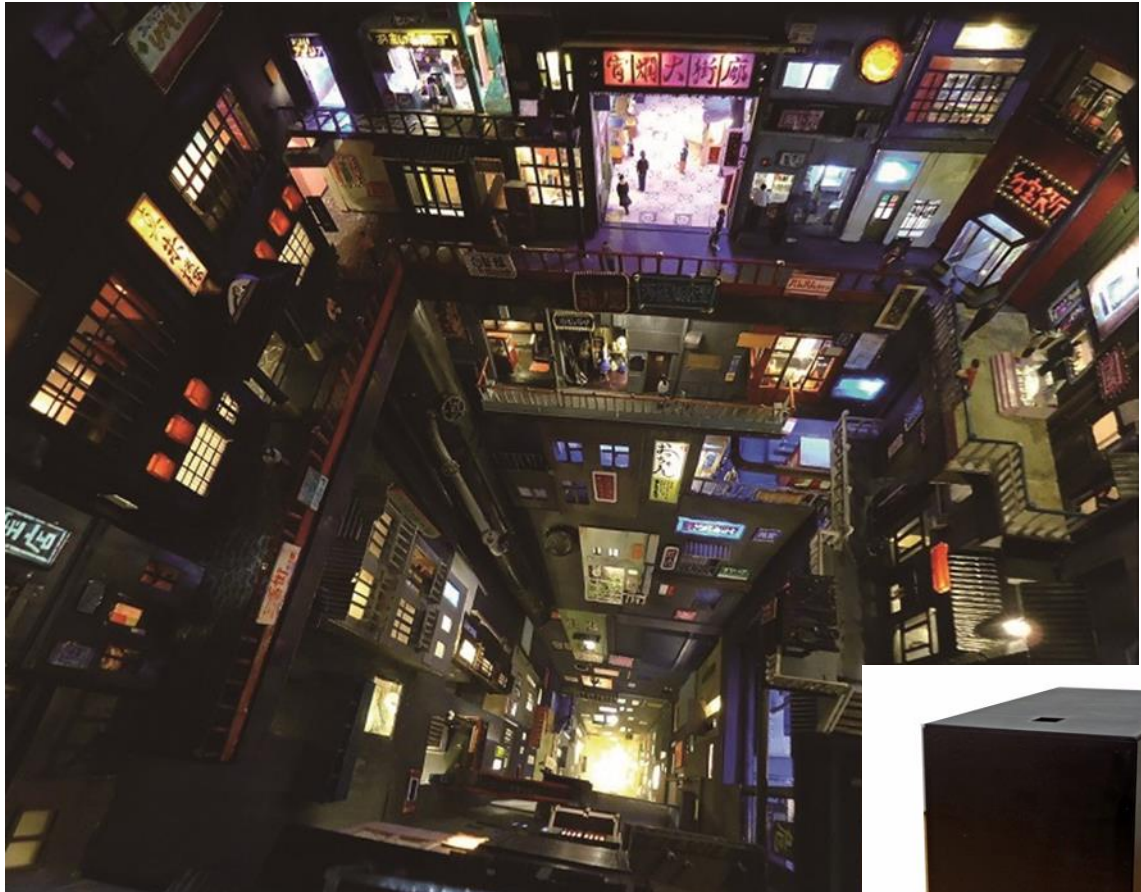


平成30年度山口市美術展覧会講評

大賞

「城砦」

田村 絵里



ボックスアートとして、上部の四角い窓から覗き見するという鑑賞方法を取っており、外観と内部世界のギャップが意表を突く。今は無き香港の九龍城砦を彷彿とさせる夜の城砦内は、様々な看板で彩られており、店内の様子も伺える。高い階層から眺める底の見えない内部空間は、過去から未来へと継続する悲喜交々至る人々の人生が垣間見られるようである。一点透視図法を立体的にジオラマ化し、巧みに微光を操り、看板や街灯を表現することでリアリティを再現したその世界観は類を見ない。高所恐怖症の方はきっと足が竦むに違いない。

(上原 一明)

◆ 総評

審査は、賞を決める前に、先ず選外作品を振り分ける作業から始まりました。これは出品者の気持ちを考えると心苦しい作業ですが、本展の趣旨や質の向上、賞が名誉あるものとして示していくためには必要なことであり、審査員は、規定を逸脱していないか、展示作品としての最低限の質を確認しながら回りました。最終的には選外作品はなく出品作品全てが入選となりましたが、いくつかの作品で審議の必要を迫られた作品もありました。また、部門に関わる問題もありました。絵画部門か写真部門か、あるいは立体作品に於いて、彫刻、工芸、デザインの違いは何なのか、部門のカテゴリー分けの検討が必要な現状を再認識させられながらの審査となりました。

全体的には質の高い作品が揃っていたように感じました。特に、大賞に選ばれた「城砦」の作者は若い方と聞いており、若者が活躍できる展覧会の将来性を感じることができました。歴史ある本展が、芸術性を持った発信力のある市民の表現の場として発展していくことを期待したいと思います。

(審査委員長 原井 輝明)

(審査員)

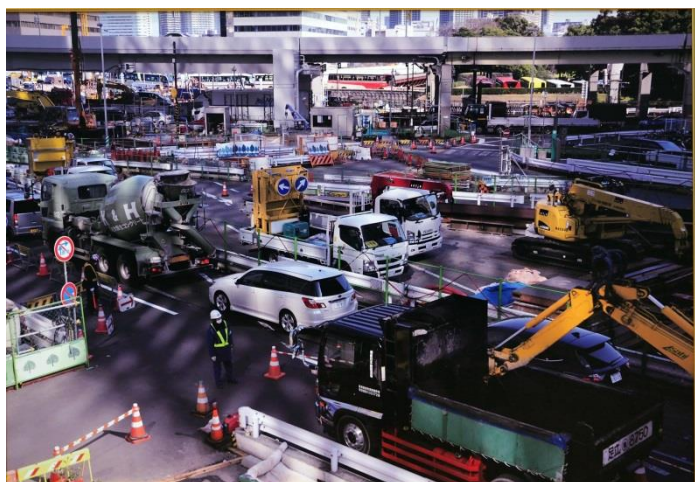
生田 照代	梅光学院大学非常勤講師
上原 一明	山口大学教育学部教授
倉田 研治	山口県立大学国際文化学部准教授
後藤 修	山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長
原井 輝明	宇部フロンティア大学短期大学部准教授

(五十音順・敬称略)

準大賞

「カオスな光景」

江村 順子



工事車両、警備員、通行車両、ガードレール、ロードコーン、高架、大型バス、所々に影と光...様々な要素が入り乱れ、一見雑然とした空間がひろがっている。しかし、画面は水平が整えられ安定しつつ、混沌とした社会のうねりを丁寧に捉えている。ロードコーン、パワーショベルは動きと色のアクセントを創出している。警備の人は何を思う？工事渋滞？観光地かバス会社か？鑑賞者の眼差しの向け方によって、様々な楽しみ方が内包されている魅力的な作品である。

(倉田 研治)

山口市教育委員会賞

「無事を友に、漁を終え・・・」

國重 英昭

整然と並ぶ家々の瓦一枚一枚までも緻密に描き、漁港の集落を海の側から捉えた作品は正確に再現され、写経に取り組む修行僧の様な神聖さを感じる。作者は普段は漁をしているのか、していたのか、題名の「漁を終え・・・」の「・・・」は余韻を残すように付けられており、ヘミングウェイの「老人と海」を想起させ、更に想像が膨らむ。何れにせよ、岩絵具だろうかザラ付きのある明るい顔料で描かれた画面は砂浜と太陽の光を感じさせ、見る人を絵画空間に惹き付けてくれる作品である。

(原井 輝明)



山口文化協会賞

「共に」

吉見 芳子



農作業中の老夫婦が山道の坂道でこちらをふと振り返った一瞬を捉えている。画面手前から奥へと道がのび、その中心に老夫婦が来る構図と、前景の木々の影と人物背後の光とのコントラストや明暗の諧調によって、私たちの視線は画面中央の二人の姿に強く引き込まれる。老夫婦は作者のご両親で、長年共に歩いてこられたお二人の人生の深みがモノクロームの写真ゆえに一層伝わってくる。人生の終わりに向かう暗さというより、新たな生活をさらに共に歩いていこうとする強い意志も感じられる作品である。

(後藤 修)

おごおり文化協会賞

「春の詩」

増田 美登里

「春の詩」という題で、多字数の漢詩を隷書で表現、それを四枚に分散配置し、屏風仕立てにした完成度の高い作品です。整然と落ち着いた雰囲気の中、躍動感あふれる表現が随所にあることが窺えます。それは、波磔や収筆の独特の表現技法であり、そのことがより作品を魅力的にしていると同時に、作者の力が如何なく発揮されているところでもあります。

(生田 照代)



平成30年度山口市美術展覧会受賞者一覧 (H31.2.26現在)

賞	部門	作品名	作者氏名	年齢
大賞	デザイン	城砦	田村 絵里	24
準大賞	写真	カオスな光景	江村 順子	66
山口市教育委員会賞	絵画	無事を友に、漁を終え……	國重 英昭	69
山口文化協会賞	写真	共に	吉見 芳子	61
おごおり文化協会賞	書	春の詩	増田 美登里	42
奨励賞	絵画	素描人物	小田 弘子	83
〃	彫刻	星体X=Hand (アストラル・ボディ)	斉藤 正和	66
〃	絵画	搜索—エリアを越えて	時浦 道子	77
〃	工芸	の伸びゆく	藤井 由佳子	78
〃	絵画	共生	村田 賢二	68
審査員特別賞	絵画	燃ゆる秋	大塚 則子	71
〃	写真	フェイス	蔵本 直子	39
〃	書	うき草の	末田 文子	89
〃	絵画	お猫様	中田 真由美	41
〃	絵画	いのち 生命	みつなが 透	75

(敬称略)